

令和 8 年度 第 1 回萩市立図書館協議会 議事録

令和 8 年 6 月 3 日（水）

14 : 00 ~ 15 : 30

会場 旭マルチメディアセンター

出席者

協議会委員 岡崎祐介委員・杉山恵子委員・有田真美子委員

（8 名） 土山政子委員・浅井智子委員・阿武知弘委員

井上仁奈子委員・大久保裕元委員

教 育 長 池田教育長

事 務 局 教育委員会事務局 岸田局長

萩図書館 佐々木館長・森岡副館長・松浦主任主事

須佐図書館 宮内館長・村木主任主事

明木図書館 山本館長・市原司書

田万川中学校図書館 田村館長

学校教育課 西山係長

NP0 萩みんなの図書館 児玉理事長

伊藤副理事長兼事務局長

〈市職員・NP0 萩みんなの図書館役員自己紹介〉

1. 開会のことば（山本館長）

大変お忙しい中、遠方にもかかわらず、旭地域にお越しいただき感謝する。全国的には台風 6 号が猛威を振るっているが、幸いにも協議会が開催できた。本日は忌憚のないご意見をいただくよう、よろしくお願いする。

2. 教育長あいさつ

本日はご出席を賜り感謝する。また、先ほどは日本でも由緒ある明木図書館を見学いただいた。委員におかれては平素から萩市の図書館運営にご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げる。さて、萩市立図書館は、令和 5 年 3 月に、「第 2 次萩市子ども読書活動推進計画」を「萩市ひとづくり推進計画」に編入し、令和 5 年度から新たな計画として読書活動の推進に取り組んでいる。現在ではこの指針に基づき図書館の運営を行っており、各館において読書活動を通して、乳幼児から高齢者、さらには読書困難な方等、すべての市民の皆さんの暮らしを心豊かにできるよう取り組みを進めている。それぞれの図書館では、通常のサービス活動のほか、図書館司書が学校や地域に出向いて読書啓発を行う「出前講座」に力を入れており、具体的には、学校図書館のリニューアルや読み聞かせ、お話会の開催、また電子図書館の普及等に積極的に関わりながら、読書活動の推進を図っている。今年度の取り組みについては、後ほど担当者から説明があるが、私から若干、概要をお話させていただく。

まず、萩図書館では、この４月より「萩市電子図書館」を充実させ、児童書・雑誌等の読み放題の提供を開始した。

須佐図書館では、新たな移動図書館車を導入後、子どもたちが、移動図書館が来るのを楽しみにしており、大変に喜ばれていると聞いている。また、須佐地域の公共施設では初のWi-Fi整備が完了し、昨日６月２日から運用を開始した。こうした動きと合わせて、懸案事項だった「須佐図書館の今後の在り方」を検討する上で、現在、利用者のニーズを把握するため、朝９時からの開館や週１回夜間の開館時間を午後８時までとするなど、この７月まで試行的に利用状況を見ている。併せて、令和９年４月からの本格運用に向けて、須佐図書館の理念等を再構築して、これからの時代に対応した須佐図書館のあり方を検討していくこととしている。この後、委員の皆様からご意見をお聞きするのでよろしくお願いします。

明木図書館は、今年度４月に開館１０周年を迎え、記念行事を行った。そして、明木小・旭中学校は、読書活動において、昨年度の育英小学校に引き続き、文部科学大臣表彰を受賞した。

田万川中学校図書館は、今後も学校内にある地域開放型の図書館として、学校と連携した地域の図書館として取り組んでいく。

このように、それぞれの図書館は、ソフト、ハード両面の課題解決を図りながら、読書活動の推進を図っているところ。終わりに、本日は、限られた時間ではあるが、委員の活発なご意見をいただき、図書館運営に役立てたいと思うのでよろしくお願いします。

３．会長あいさつ ※会長欠席のため副会長あいさつ

先ほどの明木図書館の見学で日露戦争勝利を記念して明木図書館が建設されたという貴重な歴史を知ることができた。本日は、教育長からも話があったが、須佐図書館のめざす姿について、グループワークを行う。ぜひ活発な意見交換をお願いします。

４．議事

森岡副館長 規程により議事は会長が務めることになっているが、会長欠席のため、岡崎副会長に議事進行をお願いします

議 長 議事（１）「令和７年度事業報告及び令和８年度事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

佐々木館長 萩図書館の事業報告・事業計画について説明

村木主任主事 須佐図書館の事業報告・事業計画について説明

市原司書 明木図書館の事業報告・事業計画について説明

田村館長 田万川中学校図書館の事業報告・事業計画について説明

議 長 議事（２）「令和８年度読書に親しむ活動推進事業実施要項」について、説明をお願いします。

西山係長 令和８年度読書に親しむ活動推進事業実施要項について説明

議 長 それでは、議事（１）（２）についてご意見ご質問を一人ずつお願いしたいが、その前に佐々木館長より追加説明があるのでお願いします。

佐々木館長 事前に委員さんより４月から運用開始になっている電子図書利用について、児童生徒の

皆さんへの広報や利用啓発などの方法は？という質問を受けている。今までの萩デジタルコレクションや 萩図書館で購入した電子書籍に加えて、令和 8 年 4 月から萩市電子図書館で児童書や雑誌など読み放題の提供を開始した。記者発表や議員へのお知らせ等はすでに行っている。4 月の初めに市内の小中学校の校長先生や代表メールに学校用電子図書 ID を送付し、電子図書館利用についてのお願いをメールした。約 700 点の読み放題パックや約 320 タイトルの読み放題雑誌が新しく電子図書館で利用できることや、電子図書館の利用の流れについてお知らせを送った。ID については、児童生徒用と教職員用を渡している。学校ごとの統計をとっているの、今後の読書啓発に役立てる。また、教員・児童・生徒・学校ボランティア対象の出前講座を行い、読み聞かせやブックトークだけではなく、電子図書館の利用についても学校に出向いて説明し、実際に体験してもらうことで利用を呼びかけている。市民に対しては、広報萩 6 月号の情報案内板に掲載し周知している。また、チラシ等も作成している。先ほど明木図書館入ってすぐの壁にこの利用方法等が貼られていた。そのように啓発を各図書館で行っている。今後も電子図書館の周知や充実を図り、サービスの向上や利用者拡大に努めていく。

- 議長 それでは委員からご意見等をお願いする。
- 委員 毎年色々とやっていただきありがたい。電子書籍について読み放題があると聞き、電子図書館をぜひ活用したいと思っている。
- 委員 電子図書館にログインしようとしたが、入り方が分からなかった。スマホは画面が小さいのでどこからどう入ったらいいのかが最初が大変。スマホ操作は年齢が高い人ほど慣れていないから最初は使いにくいかなという気がした。割とスマホに慣れている私でも苦労したので、年齢が高い人には誰かが付きっきりで教えてあげないと、最初の入り方は難しいのではないかな。読書に親しむ活動推進事業についてだが、今の子ども達は語彙力がなくて、会話の中に単語が少ない。それを補うにはやはり自分で本を読んで力をつけないことには難しいかと思う。読み聞かせなどでお話を聞くのはすごく好きだけど、そこから自分で読む力をつけていくことに繋がっていないのではないかな。そこを上手に繋げていけたら良いという気がしている。やはりコミュニケーションが大事だと思う。
- 委員 計画の説明をいただき、経年劣化にかかる修繕等が相整ったようなので、これから皆さんに図書館に来ていただくという方向性で考えていかなければいけないのではないかな。方法等また皆さんで検討し、色々出し合って進めていったら良いと思う。読書に親しむ活動推進事業について、読む力が低下している子ども達について話が合ったが、子ども達へのアプローチも大事だが、家族・親のアプローチが必要だと思う。私達にも活字離れがあるのではないかと、私自身も痛感している。
- 委員 明倫の読み聞かせボランティアで読み聞かせをしている。時代とともに変化している中で、色々なことを提案されて頑張っているのを知り、素晴らしいと思った。こちらが申し上げることがないくらい、色々計画されていることを知ることができた。須佐・明木図書館も楽しく、素晴らしいと思った。中学 3 年生の息子がいるが、どうしても本を読んでくれるのかいつも思い、聞きたいくらいなのだが、学校や先生方は精一杯やってくださっているという風に感じているので、後は私たち親の力が必要かと思っている。
- 委員 甥がいるが、いつもスマホやタブレットで YouTube をみていることが多くて、本を読んでいる機会が少ない。やはり親や上の世代が本を読むところを見せてあげないと、子どもも本を手に入る機会が少なくなるのかと思う。私も本を手に取りたいと思う。せっかく電子図書館もあるということなので、この機会に利用したい。

- 委員 電子図書館に入ろうとしたが難しい。年配者向けにいつでも聞けるような場を用意していただけるともっと普及につながる。調べ物には辞書を使わなくなっている。ついスマホのような便利な方へいってしまうのでいけないと思っている。孫がいて絵本を送るが、スマホのYouTubeを見ていることが多い。親もついつい子どもの機嫌をとるのにスマホを渡す。親も本を手にとって読書していくことが必要。
- 委員 紙の現物とデジタルの融合というところで、電子図書館があり、進化していると感じた。デジタルの良さ、現物の紙をめくること、それぞれの良さがある。私は朝、新聞を時間をかけて読むが、普段紙媒体に接するのはそれくらいしかない。活字を読むスピードが非常に低下しているという話には愕然とするものがあった。我々親世代にも何かしら原因の一端があるのではないかと感じている。なぜ活字に親しまなければいけないのかを今一度考えてみる必要がある。動画は目に入りやすく理解しやすい。活字を見ることが良いことだと親を含め子どもにも理解してもらえれば、何かしらの読書向上等のきっかけになるのではないか。
- この時間に萩市の公式ラインを見ると、図書館というボタンが存在していたことに今更気づかされた。電子図書館の入口等色々ある。ログインしようと図書館カード番号を入れたが、パスワードが分からずできなかった。萩市のラインは防災情報やごみ収集など便利に使っている。そこから萩図書館にもアクセスできるのは有用だと思う。ログイン手順が詳細に分かるようになっていけば良いと思う。図書館の環境はすでに整っていると感じている。
- 森岡副館長 萩図書館にログインするためのパスワードの初期設定は生年月日になっている。4桁の西暦と1月1日なら0101の8桁の数字。自分で変更することは可能。電子図書館は別にID・パスワードが必要。
- 議長 読書に親しむ活動推進事業について、効果的な取組みモデルを構築されることとなっているが、先程西山先生からご説明いただいた「読書が好きか」という質問に対して萩市は好きな子の割合が低いことについて、いろいろな理由があると思う。必ずしもネガティブなものだけではないかと思う。「読書が好きか？」という質問に対し、「好きだけど読んでいない」「嫌いけど読む」といった、多様な回答があると思う。これだけたくさん取り組みをすでにしていて、萩の子どもは読み聞かせなど読書に触れる機会はあると思うのに、全国県内他市に比べて割合が低いのはなぜなのか。理由要因がアンケートの中にあるだろうか。
- 西山係長 アンケートの具体的な細かい分析は出ていない。学校図書室に行って読書をする時間はかなり多いし、本を読むこと自体は嫌いではないと思う。中学校でも朝の時間で10分程度読書している学校が多いので、読むこと自体は好きだと思う。
- 議長 そのあたりに理由があるのなら、そこに子ども達が好きになっていくヒントがあるのではないかと思う。好きになるためのモデルなのか、読む機会を増やそうというモデルなのかで違うように感じる。親しむをどうとらえるのか。
- 西山係長 親しむとしているのは、まずは本を手にとって読むという入口をつくること。読書が好きな子どもの割合が低いということは、多くの児童生徒が本を手取る機会が少ないということなので、手にとる、親しむという段階をまず目指す。例えば「ビブリオバトル」はレベルが高く、読書好きな子どもが参加しているが、それよりもハードルの低い「ライぶらり」というものがある。棚から本を選び、内容ではなく、なぜその本を選んだかを発表しあう。萩図書館の出前講座メニューとして取り組んでもらっており、本に親しむことができる。そういったものを普及していきながら、両輪で読書が好きな子どもの

力をさらに伸ばしていく。本を手にとっていない子どもへ読書への入口を作っていくことが大部分になっていると思うので、親しむとしている。

- 議 長 議事事項（３）新たに策定する「須佐図書館の目指す姿（仮）」について、事務局より説明をお願いします。
- 宮内館長 「須佐図書館のめざす姿（案）」について説明
- 議 長 ４人ずつグループで３分間意見交換し、取りまとめてグループごとに代表者に発表してもらいたい。須佐図書館の事務局もグループに入って意見を聞いてほしい。
- 宮内館長 事前に欠席的村会長から意見をいただいているので代読をする。
「須佐図書館の特徴やこれまでの取り組み、持ち味がしっかりと生かされていてよく表現されていました。また、地域性も踏まえて、移動図書館や学校図書館の件もよく網羅されていました。今後このように進めていきたいといった思いも感じられ、とても良い私たちが目指す須佐図書館の案だと感心しました。この私たちが目指す須佐図書館をぜひ実現してほしいと思います。この実現に向けて図書館職員のご努力は大変かと思います。私も微力ながら応援したいと思っていますので、教育長さんをはじめ教育委員会の皆さんや、須佐総合事務所の皆さんのお力添えもどうぞよろしくお願いいたします」
- 委 員 何も言うことがない。ぜひこの案を実現に向けて頑張ってくださいたい。個人的な意見で、図書館は静かにしないといけない思いがすごくあったが、話の中で、にぎやかでも良いと言われると、小さいお子さんを連れた親にもとっても行きやすい図書館になると思った。小さいお子さんがいて、お年寄りがいて、世代間の交流がしっかりできるような図書館になるのではないかと楽しみにしている。
- 委 員 １項目目が図書館の案としては斬新だと感じた。にぎやかでいいではないかというのは、少子化であるし、人口の減りつつあるエリアにおいては皆さんが集える場所という意味では非常に意義があると感じた。交流がはかれる場所になっていただけたらと思う。具体的な案として目指す方向性が伝わってきた。
- 宮内館長 ご意見をいただき感謝する。
- 議 長 議事は終わる。

５．その他

- NPO 伊藤副理事長 職員の選んだ一冊という冊子を配布している。平成 25 年 5 月より読書普及活動の事業の一つとして、はぎ時事新聞に掲載をしてあるものをまとめた。職員の思い入れのある本、そして利用者の方にぜひお勧めしたい本を毎月 1 冊ずつ選んで紹介している。今回のお手元にある資料については、開館 15 周年を記念して開館 10 周年以後の令和 3 年 2 月から令和 7 年 12 月に掲載された部分をまとめたもの。是非ご覧いただきたい。これ以前の冊子としては、開館 5 周年と開館 10 周年のもの 2 冊があるが、それは萩図書館の方で展示しているので、是非ご来館の際にお読みいただければと思う。また、先ほど須佐図書館のめざす姿の案の中でコミュニティの場としての図書館という話があった。萩図書館も開館当初よりそのような図書館を目指すとしているので、ぜひご来館いただきたい。
- 森岡副館長 今年度第 2 回目の協議会は委員にとって最後の協議会となり、萩図書館で開催する。日程が決まり次第連絡するので出席をお願いします。
- 館 長 自宅に戻って気づきがあればまたご連絡をお願いします。

6. 閉会のことば（田村館長）

本日は大変熱心なご審議、大変お疲れ様。田万川中学校図書館に皆さんをお迎えするというのはなかなか難しいと思うが、田万川地域には道の駅や温泉などあるので、ぜひ足を運んでいただけたらと思う。それでは、以上をもって、令和8年度第1回 萩市立図書館協議会を終了させていただく。